

県外派遣報告書

審判員名	山岸 大輔	所属	高体連
大会名	平成29年度 関東高等学校男子バスケットボール大会		
期間	平成29年6月3日(土)・4日(日)		
会場	東京体育館 東京都渋谷区		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
6月2日(金)	審判会議	関東国際高校	
6月3日(土)	関東大会1・2回戦	東京体育館	
6月4日(日)	関東大会準決勝・決勝	東京体育館	
会議 講義 内容			
<p>東京を代表して平原勇次氏による挨拶、続いて関東審判長渡邊整氏より挨拶。レクチャーでは指名の小澤勤氏より、JBAプレイコーリング・ガイドラインの解説があった。また指名の平出剛氏からは、御自身の経験をもとにお話があった。続いて渡邊整関東審判長からは大会に臨むにあたり、①2POの確認事項について、②今年度から始まる大会最終日のグループミーティングについて(全審判員が主体的・積極的にゲーム観察しミーティングに参加。責任感も身に着ける)、③評価表について(今大会からは派遣審判員が持参し、事前に主任に手渡しする。どんな観点で評価されるのか知っておくこと)の3点についてお話があった。</p>			
実技			
担当試合	期 日	6月3日(土)	男子Aブロック1回戦
	対戦カード	実践学園(東京) VS 県立取手第二(茨城)	主審 副審
	相手審判	大澤 尚樹 氏(千葉)	
ミーティング内容		主任	加藤 誉樹 氏(東京)
<p>ガイドラインに関していうと、序盤から手の使い方の整理をもっとした方が良かった。選手がやめなければ、こちらも根気強くフエを入れていくこと。エリア1でのトレイルの位置を工夫すること。クイックでシュートに行く際にも対応できる位置取りを。またスペースだけでなく3Pラインも確実に確認できるように。コーチのクレームに対する工夫を。こちらは熱くならず、コーチの振る舞いにゲームに対するリスペクトを感じられないと判断したら、TFの記録をひとつつけるくらいの気持ちで宣せばよい。また、せっかくコーチングをしているのだから、タイムアウト中に次はどういった指示がコーチから出るのかなど、コーチ視線を審判にも取り入れられると良い。</p> <p>個人的には、前日の渡邊氏のお話も参考に、2POでの動き方がすっきりしてきたと考えている。より追求していきたい。</p>			

グループミーティング				
担当試合	期 日	6月4日(日)		男子Aブロック準決勝
	対戦カード	土浦日本大学(茨城) VS 船橋市立船橋(千葉)		
	審判	R:谷古宇孝氏(東京) U1:平原勇次氏(東京) U2:佐田幸一氏(山梨)		
ミーティング参加者 主任:漆間大吾氏(東京) MC:大山賢史氏(栃木) 手塚清孝氏(山梨) 山岸				
<p>4人でゲームを観察し、2つの現象をトピックとして取り上げた。一つ目は第2ピリオド残り5秒、ノーコールで終わったプレー。参加者それぞれがそのプレーに関する見解を述べた。ちょうどその場面を映像で記録しており、全員でそれを確認し、結果としてファウルとして取り上げるべきプレーであったと結論付けた。ではそのときに我々はこういった準備をしておけば良かったのか。①トレイルがバックコートのエンドラインからスローインするので、そのままボールマンの1対1を追従し、センターがゲームクロックの管理をする。②チームファウルのペナルティがあるかどうか確認を。フリースローになるならばタクティカルファウルはない。逆に余裕があればファウルをしてもう一度スローインさせるかもしれない。その他、スローインの前にどれだけ準備ができていたかが大切で、それができていればノーコールであるとしてもその根拠を説明できるはず、と結論付けた。</p> <p>次に、第3ピリオドに一方のコーチがテーブルオフィシャル席前までクレームに出てきた件について。クルーのうち2人は何についてクレームに出てきたのかは分からなかったとのこと。こういっただけでどうすればよいか、参加者はそれぞれ見解を話した。皆さん共通していたのは、まずはベンチエリアまで下がることをしなければならないということ。それから必要があれば何があったか聞くことも(これに関しては、熱くなっているときに話を聞いても仕方ないとの意見も)。フエは吹かない、必要以上に聞く必要もない。それ以上言ってくれば次の対応を。話を聞いて背中を向けて戻るとき、なお言ってくるようなら、他の審判員がTFを宣せばよい、などと意見が出た。</p>				
全体の感想				
<p>金曜日の審判会議において、JBAプレイコーリング・ガイドラインに関するレクチャーを今年度の関東大会全てで行うとの話があり、プレゲームカンファレンスやゲーム後のミーティング、最終日のグループミーティングや各ゲームの評価もそれを踏まえて行われました。県内でもガイドラインをもとにプレゲームカンファレンスや実際のゲームの判定などを行っていかねばならないと強く感じました。また、グループミーティングを実施することで、ゲーム観察や自分の意見の述べ方など、今までとは違うゲームへの参加の仕方を学び、機会があれば県内でも導入しても良いのではないかと思います。</p> <p>改めまして、派遣していただいた埼玉県協会の方々には御礼申し上げます。ここ数年、大変良い経験をさせてもらっています。今後も精進し、成果を上げていきたいと考えています。また東京都協会の方々には3日間大変お世話になりました。</p>				